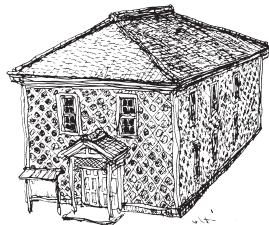


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

いわたにじゅうろう
岩谷十郎

慶應義塾の記念日

慶應義塾にはいくつかの記念日があります。福澤先生の誕生日である1月10日には、毎年「誕生記念会」が開催されます。この日、塾内は一貫教育校から大学院まで休講となります。創立者の誕生日を皆でお祝いすることは、義塾中の絆の強さを表すのですが、この記念会の始まりには、実は創立者の生と死が関係しています。

福澤先生は、1901（明治34）年2月3日に亡くなりました。その翌月、慶應義塾の評議員会が開催され、維持会の組織化が決定されました。その趣意書の冒頭は、「福澤先生歿せらるる、慶應義塾も共に葬る可きか、否我々は之を葬むるに忍びざるなり」とあり、当時の義塾の首脳部の深い悲しみと、先生亡き後の義塾の運営をどうしてゆくのか思索する姿を伝えています。またこの1年後には、福澤先生の「一周年祭」が開催され、先生の高弟で社頭を務めていた小幡篤次郎によって追悼文が読まれました。福澤先生と同じく中津出身で早くから先生を助け、慶應義塾を支えてきた小幡は、生前の福澤先生が仏教やキリスト教といった特定の宗教に帰依しなかったことから、どのよう

な方式で先生の霊を祭ってよいのかが分からない、と戸惑っており、小幡にしても福澤先生の死去をなかなか受け容れられなかった様子が窺えます。

けれども、ここで小幡たちは、生前の先生の「独立自主の主義」にこそ永遠の「霊光」が宿っているとの解釈を示しました。福澤先生を亡くした後、意気消沈していた慶應義塾が「独立自主」を初めて掲げた瞬間だったのではないでしょうか。これ以降、2月3日という先生の命日は、「福澤記念日」として先生を偲びつつ社中が集う日となったのです。

ところが、1911（明治44）年から福澤家では、それまで旧暦の12月12日だった福澤先生の誕生日を新暦に基づき1月10日に変更したのです。この日取りは、新年明けて間もない清々しさの中、晴れやかでポジティブな気持ちにさせてくれます。義塾もまたこれに倣い、1月10日を「福澤記念日」とし、特別な日に決めました。慶應義塾において、毎年巡りくる1月10日は、今も福澤先生の理念や精神が常に新たに生まれ続ける存在であることを、私たちが確認する記念日なのです。